

伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会議事録	
会議名称	第 4 回 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会
開会日時	平成 27 年 10 月 13 日（火）午後 3 時 00 分
閉会日時	平成 27 年 10 月 13 日（火）午後 5 時 05 分
場 所	伊那市役所本庁 5 階 501、502 会議室
出席者	<p><b>策定委員アドバイザー</b>            独立行政法人 森林総合研究所 理事 鈴木 信哉            林野庁中部森林管理局 南信森林管理署長 花村 健治</p> <p><b>策定委員</b>            委員長 信州大学農学部教授 植木 達人            副委員長 上伊那木材協同組合 理事長 都築 透            独立行政法人森林総合研究所 領域長 山田 茂樹            伊那地区 橋爪 俊夫            長谷地区 市ノ羽 茂則            伊那地区 加納 ます枝            高遠町地区 伊藤 のり子            伊那市西春近諏訪形地区 区を災害から守る委員会 副会長 酒井 卓実            株式会社 DLD バイオエネルギー事業部 木平 英一            有限会社 平澤林産 代表取締役 平澤 照雄            NPO 法人 伊那谷森と人を結ぶ協議会 理事長 稲邊 謙次郎            NPO 法人 森の座 理事長 西村 智幸            上伊那森林組合参事 森 敏彦            上伊那森林組合参事 バイオマス・エネルギー室長 寺澤 茂通            国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所 砂防調査課長 大森 秀人            長野県上伊那地方事務所林務課普及係長 塚平 賢治</p> <p><b>事務局</b>            7 人</p>
欠席者	<p><b>策定委員</b>            高遠町地区 伊東 一</p>
議 事	(1) 各専門部会からの発表 (2) ビジョンの目標 (3) ビジョン報告書の構成（素案）
資 料	(1) 会議次第 (2) 50 年の森林（もり）ビジョン実行計画検討表 (3) 50 年の森林（もり）ビジョン実行計画検討表（最終案） (4) 素案 V. 1 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会編
議事録	1. 開会

## 2. 委員長あいさつ

### (委員長)

今日で4回の議論を重ね、ビジョンの具体的な素案を作っていく段階になった。今回は、各委員から、あるいは専門部会のリーダーから、内容についてのご報告を頂くと共に、それに対しての議論を行いたいと思っている。こういった中で、次回に向けての基本的な案を作っていきたいと思っている。

それでは協議事項3つ、今日は用意されている。一つ目が各専門部会からの発表、それからビジョンの目標、三つ目にビジョン報告書の構成(素案)とある。

まず一つ目。「生物多様性と自然環境の保全と向上」ということで、お願いしたいと思う。

## 3. 協議事項

### (委員)

はい。「生物多様性と自然環境の保全と向上」ということで、この結果についてご説明する。生物多様性と自然環境ということだが、生物多様性という言葉が自然環境と言う言葉で覆われるのではなかろうかと思う、「生物多様性を中心とした自然環境の保全・向上」というかたちである目標を変えた方がいいのではないかというのが、まずもっての提案である。

実行計画については、4点計画を書かせていただいた。一つ目が、「特定とゾーニング」、二つ目が「生物多様性の保全・向上に寄与する森林施業」、三番目が「市民参加による自然環境の保全」、四番目は「生物多様性についての教育の推進とエコパーク・ジオパークエリア等でのレクリエーションの活発化」という4点である。まずは「特定とゾーニング」のところである。特定とゾーニングであるので5年後までには、まず保全・向上させるべき生物多様性を中心とした自然環境に優れた地域、これは地形とか地物を含むそういうものの特定だとかゾーニング。改定期のある平成29年までに、ゾーニングをして反映していく。10年後はそれについて随時検証を行って、見直しを行っていくというものである。ゾーニングした後に、②の実行計画になろうかと思う。「何を」というところで、5年後である。ゾーニング内の生物多様性の特異性に応じた施業、施業指針の基のものを作成したいなということ。それからゾーニング外であっても、こちらも特定の動植物に対するその動植物の特異性に応じた森林整備はどんなものが必要なかということ。それから、そういうものに求められる森林というものを施業に反映、特定して、これも同じく市町村森林整備計画に反映させるべく、平成29年までに、策定して反映させたらどうかという部分である。地表のかく乱を伴う付帯作業についても、最大限、生物多様性の保全に努めていこう、といったことを指針化したらどうかといったところも補足して記入した。

三番目である。これは一番目のゾーニングと関係するのだが、先にゾーニングのところでも申し遅れたが、コアゾーン、核となる地域というのと、バッファゾーンというこ

とで、核になる地域に隣接する、また近接する、生物多様性をつくれば、森林地域をコアゾーン、バッファゾーンということにゾーニングしたらどうかというように考えているが、そのバッファゾーンを中心に、色々なエコパーク、ジオパークだとか、国立公園に指定されているところ以外でも、守っていかないとならない自然環境というものもあるのであると思う。そういったものを、市民参加、市民の皆様の協力を得て、マップ作りを行ったらどうか、というのが1年後に入っておる。5年後のところだが、これは色々、市民参加型のそういった保全活動について、薦めていこう、というものである。例えば、初期の活動に助成をして、促進して、その結果を活動事例集なんかに広く市民に広報していったらどうかというところである。それで5年後までには、マッピングした概ね半分くらいの地域で保全活動が行われていけばいいなと思っている。10年後については、マッピングした全ての地域で、必要な自然、生物多様性を中心とした自然環境が市民参加、もしくは行政の規制等も含めた、きちんとした保全、向上のしきたりが講じられているということ、10年後とした。

④である。教育推進とレクリエーションの活発化である。これもまた③番と関係するが、5年後には、小・中学生を対象とした教育の活発化、それから②番は、大人を対象とした教養講座等を開催して、例えば③番での市民による自然環境の保全活動、こういったところにおおいに参加して下さいよ、というようなところで誘ったらどうかというところだ。5年後の③番のところである。こちらは、実行計画の中の、目標の中の5番目か。森林・林業が担う住民要請への寄与のところに、レクリエーションという言葉が素案の段階であったので、そことの関連、おおいに関連していければと思っているが、エコパーク、ジオパークエリア近隣の観光施設に従事する方の専門研修の開催等を通じた市民教育の実践と、それに選出された市民ガイドによるエコツアー等のレクリエーション活動の活発化というのが、5年後までには市民全域で始まっている、10年後にはそういった活動が定着している、というようなかたちで、実行計画を組ませていただいた。

#### (委員長)

伊那市の特徴にうまく反映するように、あるいは市民にとっての魅力あるような森林ビジョンを作るために、思い切った大胆な提言があっていいかと思うし、夢を語って結構だと思っているので、遠慮なくよろしくお願ひしたい。

#### (委員)

最初に、「山地保全、機能向上について」であるが、昨年の広島の大規模な土石流災害を例に挙げて、今、宅地造成、山地開発が溪流に上りつめていく、大規模な災害が起きたわけである。この辺、見渡すと西春近の中では、犬田切川の溪流沿いに別荘があって、あと前沢川は平成18年に土石流が起きた河川であるが、そのところに楕円形えん堤、西山の隆起ではあまり見られないスリットダムである。高さ15メートル長さ71メートルになるが、その上部に一軒お宅がある。それ以外は、今のところ高台の山地開発はないのではないかと、この辺はいいとしても、ある程度規制ラインを設けた方がいいかという気がする。諏訪あたりを見ると、かなり高台の方が開発されていて、危ないところも

みられるようである。それから森林整備の関係だが、山地保全で、今までもやっている西春近財産区であるとか、各地区の山林組合であるとか、こういったところの活動の徹底をして、また担い手の育成していく、こういうことが必要だと思う。また、危険区域には、治山治水工事を要望し、間伐等の事業の継続化を目指したい。こんなことで、一番目の「山地保全、機能向上」について話し合った。

第二番目に「水資源保全と機能向上について」というところである。水源林の買収防止ということで、実はある NPO 法人の数年前の資料を引っ張り出して、実はこの中で、外国人が日本の山を買い占めていると、そういった記事であるが、実際にはあったかどうかかわかっていない。しかし、坪 100 円とか 200 円という単価であるので、誰が買ってもしわからない、わからないだけに危ないという、そこら辺の話をした。多分この辺ではないが、行政がある程度ラインを引くようなかたちで食い止めて欲しいと、こういうことである。また、水も買われてしまうということで、水資源、水源地に進入防止柵や、サインの設置なども必要ではないかと、こんなふうに思う。

それから三番目に、「山地保全、水源地保全機能向上に対する子供たちの森林教育について」、これは 5 年後、10 年後といわず、なるべく早めに進めていって欲しい事業である。資料をいただいて、この中に駒ヶ根高原の観光地図であるが、この区域中に土石流発生率であるとか、治山工事の完了場所が書いてあるパンフレットがある。それを子供たちが観光を兼ねながらそういう治山工事を見た、土石流跡地をみたとか、そういうのもとても大事だと、感じた。伊那市でもみどりの少年団とか、色々な学校の松茸狩り教室であるとか、枝打ち教室だとか色々しているのであるが、やはり教育制度化というようなことを考えていかないと、これもラインを引いて、子供たちが森林の役割だとか、そういうものを勉強した上で、植林あるいは枝打ち体験をしていていただきたいような、そんな願いでおる。是非教育制度化を意識していただきたいと、そんなふうに考える。

#### (委員長)

はい。大きく三つの転機でやってみたらどうかということ。次は、三つ目の専門部会で「森林生態系の健全性と活力の向上」

#### (委員)

「獣害対策の推進」ということであるが、必要性も書いてある。日本ジカを主とする農・林業への被害は深刻な状況となっており、過疎化が進行する里山周辺部においてはコミュニティ存続の危機となっており、速やかな対策が求められている、ということで、これは元々、獣害があるということは、本来政策として広葉樹林の、拡大造林式にカラマツであるとかヒノキを植えてしまったというのが、ひとつの原因になると思う。それから二番目には農業の非農家と共に、過疎化、高齢化が進み、人が畑に出ている地域がなくなってしまったということも考えられる。それから農地へ行けば、獣は食物があると知って居ついてしまったわけである。その中で、それを改善しなければとても無理だと言う事で、私の方で検討した。最初にやるべきことは、個体数調整と捕獲体制をさらに充実させると共に、里山整備を推進し、適正規模の緩衝帯の設置と、広葉樹の植

林を行い、バランスのとれた森林環境を充実するプランを策定し、試行する。ということになる。人工林が多いものであるから、獣の住める広葉樹林を広めていったらどうかということを検討している。10年後であるが、伐採期を迎えている市内のカラマツ林について大規模に樹種転換を図って、針葉樹と広葉樹のバランスのとれた植林の開始。それから猟友会への補助の充実と後継者の育成及び他地域からの受け入れ態勢が必要ではないかと考えている。それから、計画当初にモデル地域の設定と作業方法を検討し、3年間程度の試行期間を設けるというふうである。50年後を目標に、5年毎事業の進捗状況を管理したらどうかと検討した。それからどこまでに達成するかということであるが、モデル地区の試行結果の分析により全市に拡大すべきプランを策定するということである。10年後であるが、全市域において、市の示したプランにより機能ごとに森林の育成を図るということになっている。植林の方法も色々あると思うが、何しろこの獣害対策を勧めるには、広葉樹林の拡大にもならないと思うので、その辺をしっかりとやる必要があると思う。

「松くい虫の推進」ということであるが、当地域はマツタケ等の特用林産物の地域を抱えているので、有効な手段を早く提示する事が必要ではないかという事で掲げている。伊那市の松くい虫対策協議会が進めている政策があるが、樹種転換地域の団地化を進めるプランを策定するということである。10年後には市内の先端地域において、積極的な樹種転換を行いたいと思う。いつまでにとということであるが、計画当初にモデル地区の設定と作業方法を検討し、3年間程度の試行期間を設けるということである。10年後であるが、50年後を目途に、5年毎、事業の進捗状況を管理する。どこまでに達成するかのところであるが、施業の団地化とプランの作成、薬剤の空中散布実施の検討である。10年後であるが、被害拡大を阻止し、積極的な木材の利活用、マツタケ等の特用林産物の保護、活用である。

三番目に、山火事防止の関係であげているが、一瞬にして全ての財産を失う山火事から森林を守ることは必要である。山火事につきましては、主として森林業者や、狩猟者の方、そこから発生するケースもあると思う。特に地域住民の注意を喚起する必要がある。特に昨年の岡谷の山火事についても、枯れ草だとか墓地の線香の火とか、そういうものが発生しているので、なるべく住民への広報活動を進めるということである。いつまでには、何でも絶え間なくである。それからどこまでに達成するかであるが、看板の設置やマスコミや市報等による広報活動を実施するということである。10年後につきましても、同じようにやっていったらということである。

**(委員長)**

次は「森林の生産力と林業経営の向上」ということで。

**(委員)**

伊那市の壮大な今の森林をとりあえず、どうやってもっていこうかということが一番の問題で、それで将来どうなるのだろうかという長期ビジョンを含めて、50年、100年の森林（もり）と考えた。今生えてくる山が将来的に、今の現状も考えながらやるには、

安定供給する一つの目的を、私たちが素材生産する中で、毎年同じような素材を必ず山から切り出して、その効果が現れるということも含めると、伊那市全体を大きく色々な面で考えていくということで、そんな事も含めてお願いしたいということが一つと、それに伴って、雇用が必ず生まれるものであるから、それが安定してくると、若い人たちが入りやすくなって、計画が立って、我々事業体の方もやりやすくなって、そんなことを含めたものと、それと先ほど松くいの話が出たが、松くいで切った跡地は、結局松くいでマツタケが増えなくなった、出ていたところが無くなったということで、そういうところも活動の計画を立てて、違う樹種を、マツタケのするような樹種、ツガとかそういうような物を植えながら更新をしていこうということを含めた話になるので、お願いします。

#### (委員)

はい（説明を代行）。

実行計画は、この森林の生産力と林業経営の向上をかくために、その必要性と意義を4項目に分けて書き記した。まずゾーニング、再三お話が出ているが、なからの棲み分け。それから集約化、経営計画というのにも含まれている。それと3番で林産物生産林、これは所有者の特定と普及というような、さらには4番目林齢の平準化、非常に林齢構成がでこぼこしている現実があるので、それを平準化していく必要があるという、4つの項目で検討させていただいたけれども、まずゾーニングがこの4つ全てを包括していくという形で、ゾーニングから3つの項目に枝葉が分かれて、枝葉が最近と言うようなイメージかなと考えながら検討した。

ゾーニングとしては、その必要性として、標高差が1400mの部分におよぶ中に民有林が分布している。その中で木材生産とさらには公益機能を果たすエリアを分類することで、効果的に機能に沿った整備を進めていく必要があるということである。5年後というくくりの中では、調度平成29年度に伊那市森林整備計画の改編期を迎え、平成30年からその計画期が始まっている。そこまでには大枠のゾーニングができてきているというのが、理想であると考えている。その中のひとつ課題としては、ゾーニングをする上で、公益的機能のエリアだとか、木材生産のエリアをある程度分類していく上では、森林所有者へはその意義と、方策の説明、さらには合意形成が必要になってくるのではないかと考えて、これをどのように進めていくにはこれから議論になってくると思う。ゾーニングについては10年後と言う事ではなくて、5年後に平成32年頃を目標に、進めていくということになる。

それから2番目の集約化については、小規模の所有林を集約することで、また将来目標を明確化することで、整備と木材生産を効果的に推進していくことであるかと思う。それをしていく上では、比較的大きな所有林、伊那市有林であるとか財産区、それから集落有林、さらには生産森林組合有林というのは県内でも有数の件数を持っているので、それらを足がかりに末端に、一部の私有林を巻き込んで、集約化、あるいは経営計画団地を形成していく事が、ここらを進めていくうえでの手法だろうと考える。まず、5年後までにはそこまである程度あげていって、10年後にはそこを含む、それらの大きな所有

を含む、個人有林の市内全てを理想として民有林の集約化、経営計画団地を形成していく事がいいのだろうと考える。

三つ目としましては、林産物と生産林・所有者の特定ということが一つの課題だろうと思うけれども、その必要として、この地域のアカマツは、中央でも非常に評価の高い「伊那松」という銘柄を与えられていて、その銘柄を後世に伝えると共に、また国内有数の産地と言われているキノコの特産化を図っていくことを検討して進めていったらどうか。国産材の色々減退等によって森林所有者の森林への関心、期待が衰退している中には背景としてあるかと思う。そこで5年後については、やはりこれも市有林の整備計画の改編期を一つの目標として、それもゾーニングということになってくると思うが、5年間の内で森林簿の精度を高めるとあるが、これは中々、県のひとつのデータベースであるので、こちらで手を加える事が難しいことがあるかと思うが、まず所有林の状態だとか、所有の所有者の対応も含めて、これも精度を高めていくことも推進の中で大きな意味を占めてくるひとつだと思う。それから森林所有者への経営計画あるいは、団地化集約化に対する意向調査をしていったらどうかという考え方もある。その林産物等の10年後については、この所有者の特定等を進めていく上でも、どうしても森林を放棄したり、森林の手入れに期待を全く持てない方が出てくるということもあろうかと思う。そうしたときに、可能であれば、その要件を整備して、所有放棄地の公有林化も検討していくことも必要だろうと思う。先ほど委員からもお話あったように、水資源の無秩序な買収等のこれ抑止するために、上伊那では水資源を保全するための共同声明があるので、それに沿った対策も必要になるかと思う。

4番目の「齢級の平準化」であるが、木材供給、木材生産していること、さらには林地保全等の、保安林的要素を高めていく上でも林齢構成は平準化をしていくのが必要だろうと思われる。ただ現実ある林を今後どうしていくのが、皆伐を一斉にするということは中々考えにくいと思う、まずは伊那市有林のカラマツ林において長伐期施業林の設置に併せて、樹下植栽、カラマツをある程度残してその下にあらたな山林の所蔵するための植林をしていくということによって、更新循環を意図した伊那市有林において指標林の順次整備を進めて、50年といわず、100年に向けての優良材の生産、産地化を図るということを取り組みとして作っていったらどうかということ。ただしこれには人材と資金が必要になってくるということになろうかと思う。10年後としては、適地・適木、並びに病虫害・鳥獣対策も考慮した、樹種転換・拡大・再造林を普及・推進するに向けて市民意識を高める為に、5年に留まらず、長期の、現状経営計画が5年とあるが、10年、15年に向けての計画の樹立を促していったらどうかというようなことを入れさせていただいた。

**(委員長)**

はい。4つの実行計画を作っていただいた。では次の「市域の持続可能な経済発展を担う農林業・木材産業活動の推進」ということで。

**(委員)**

目標だが、豊かな山が富と雇用を支える 50 年後の伊那市、そういったものが実現するようなこの 5 年、10 年だったらいいのではないかと。

最初に、市域の林業木材産業の連絡協議、連携ということである、現状、林業と木材産業の連携が非常に弱く、品質、価格共に非常に低いのではないかと、それに対して、川上と川下が連携する事によって、高品質、高価格の製品を増やしてゆき、安定的に競争力がある木材製品を供給できるようにしていこうではないかと、という目標である。具体的に 5 年後であるが、市域の林業、木材産業関係者による協議の場を設置し、まず情報交換をしたらいいのではないかと。そして現況を把握する、その結果を踏まえ市域の木材生産量、利用量を増やすための計画を作る。そしてその 10 年後であるが、市域の木材生産量、利用量が現在の 2 倍になる。量的な目標を考えたらいいのではないかと。2 倍とは仮ですけど。また現在はバイオマスの利用も多いと想定されるが、素材、もう少し板だとか、付加価値としての生産利用割合を 10 年後に増やしていきたいということである。

次に市域材活用の普及ということであるが、県産材という言葉が普及しているが、市域材というような概念と言うか、言葉は普及していないというのが現状だと思う。ただし、本当に一番身近な森林として、伊那市では伊那市の木を使う、そういう仕組み作りが必要ではないかと思う。5 年後であるが、まずは公共施設、伊那市の公共施設において市域材の利用を徹底的に進めるべきではないかと。またその中で市域材の認定、利用促進方法などを検討し、一般の民間でも利用できる制度を、この中で検討していく。また未来の市域材消費者育成という意味で、市内の小中学校において、市域材利用の授業をその意義などを、子供達に伝えていくそういうものの授業を計画したらどうかということである。その 10 年後である。伊那市の公共施設では当然のように市域材が使用されている。また市内の木材使用者（一般の方）にも市域材利用の機運が高まり、その意義を市民の方が充分に理解している状況になる。また、市内の小中学校で市域材利用の授業を実施して、小中学生から市域材利用の理解と機運が高めていく。またこのように市域材を市内で利用するというのが定着した上で、それが 10 年後であるので、これを市外へ木材製品を販売する、どんどん外へ出していく戦略を 10 年後に練っていったらどうかということである。

次に三番目。バイオマスの生産、燃料代。伊那市は現在バイオマスの利用先進地である。そこからさらに普及を目指していく。安定的なバイオマスの生産体制を確立する必要があると思う。そのことにより木材利用のベースの部分で、市域材の木材生産量、利用量の増大に寄与していくのではないかとという考えである。5 年後であるが、これは 1 番のところで協議会の設置ということになると言っているが、その場において現状のバイオマスの生産、利用状況をきちんと把握する。さらなる普及計画をここで考えたらいいのかと思う。またその計画を踏まえて、利用計画をたてるわけであるが、今度反対に安定したバイオマスの供給体制、そちらのほうを検討していったらどうかということである。その 10 年後であるが、バイオマスの利用量が現在よりさらに増え、市域の木材産業量、利用量が現在の 2 倍という目標を仮に立てたけれども、それに達成するように寄与すると同時に、伊那市の特色、魅力として定着させていったらどうか。現在いっぱい使っているが、まだ伊那市はバイオマス先進地域、外に対してまだイメージが無いと言う



が、弱いと思うので、そういうところにも力を入れていく、というのが10年期である。

最後、人材育成である。現在、林業・木材産業、それを調整する行政において、人材育成が急務ではないかと考える。その意義であるが、伊那市の林業・木材産業・行政に優秀な人材がいなければ、今まで言った1、2、3の課題というのは到底達成できないだろうと思っている。実はこの辺が一番重要ではないかと考えている。5年後であるが、伊那市で、これは行政として、市の職員としてという意味であるが、林業・木材産業に精通した専門職を育成していただき、上記の1から3推進の中心的役割を果たす。やはりどこかが中心となって動かないといけないと思うが、その中心的役割は、やはり行政にあるのかと思う。また林業・木材産業のリーダーを育成する仕組みを構築する。またこのような人材育成に投資する環境を5年後には整えていったらどうか。そしてその10年後であるが、結果として、行政、林業、木材産業にそれぞれにリーダーが育ち、その連携により今まであげた課題を達成していく。またそのリーダーによって、次のリーダー、次世代を担うリーダーが育成され、再生産されて、長期的に人材が安定的に育つ仕組みが10年後にはできている、というところが目標ではないかと思う。

#### (委員長)

はい。「森林・林業が担う住民要請への寄与」ということで。

#### (委員)

実行計画は基本的に3つに分かれていて、市域林業・木材産業というのが対象になっている。それから2番目は他機関とか、産業分野、これは他産業分野と言っているが、それとの連絡協議、それから集落との連絡協議、となっている。基本的には推進方法のところは同じだと考えている。まず最初に、ビジョンを良く知っていただいて、それぞれの、1番だったら、市域林業・木材産業を担っている方々ないし団体に、どういった形でビジョンの実行に参加できるのか。もちろんそれぞれ、利益が出なければいけないが、であるから当然それぞれの方々に、私たちだったらこういうことができるよ、ビジョンに対してこういうことが貢献できるよ、恐らくそうした話が出てくるだろう。出てきて欲しい。もちろん、ビジョンはこうなっているという働きかけをして、こういうことをやっていただけないか、という提示は必要になってくると思う。それぞれ計画を策定していただいて、参加、実行していただく。それを評価してさらにフィードバックしていく、そういう策定になってくると思う。内容はこういった話になるのかということになるが、これは今までご説明いただいた、会の内容がかなり入ってくるのだろう。例えば①の「市域林業・木材産業の連絡協議」と言うが、これは前の部会でも同じ実行計画の報告があったけれども、その項目で、4番目の部会の内容である、そういうことが関係してくるだろうと思う。②だったならば、第1部会のところ、主に観光産業のところを重視しなくてはならないというところ、その中での内容が具体的に入ってくるのではないか。その他、獣害があるとか、教育であるとか、そういうものも合併するだろうし、そういう内容のものが具体的に入ってくるのではないかと整理している。

**(委員長)**

はい。これからその議論をしていきたいと思うが、お手元の伊那市 50 年の森林ビジョンという素案が出来ている。これの中心的な部分は、今皆様にご報告いただいた六つの部会のところが、やがてこれからの伊那市の森林ビジョンの重要素になるわけである。したがって、この素案をまず概略を説明していただいた上で、各専門部会の具体的な議論ということにしていきたいと思うので、すみません、事務局の方から(3)のビジョン報告書の構成(素案)のところ、まず最初に説明をしていただきたい。

**(事務局)**

お手元にファイリングをさせていただいた、素案、素案であるが、構成の素案を準備させていただいてある。

ビジョンの構成であるが、ビジョンの構成については、今回の素案については、報告書の王道の流れを踏んでいる。まずビジョンの策定について、ビジョンの策定に取り掛かった理由等を記載させていただいて、その次に 50 年前の森林というかたちで、森林・林業の現状について、過去、また現在についての現状。それから、課題、現在抱えている課題、第 1 回、第 2 回の議論の中でお示しいただいた内容について、ご記載させていただいた。第 5 章として、森林の持っているといわれている多面的機能について、伊那市の状況等を含めて記載させていただいているところである。まずこれが第一部という形で記載させていただいている。この中で、コラムという状態で色々と情報発信を含めて、記載させていただいている。すぐに、第 2 回目の折に、将来に向けて、現在学生の皆様方や、将来伊那市を担う次世代からのメッセージを記載させていただきたいとお願いして、当初コラムみたいな形で割り込もうと思ったが、非常にご覧いただいてもお分かりいただけると思うが、非常に素晴らしいご意見をいただいたので、ここで一つにまとめてある。まとめて皆様方からいただいたメッセージを記載させていただいている構成になっている。

続いて、ここからがビジョンの理念と目標という形で、第 3 回目の折に議論いただいた素案について記載させていただいて、第 3 章では基本的な理念というかたちでも記載させていただいている。第Ⅲ部以降、今回議論いただいている実行計画、未稿であるが、それを記載させていただいている構成となっている。最終的には第Ⅳ部、50 年後の森林を目指してというかたちで締めくくり、資料に投入してというような構成を考えている。

**(委員長)**

はい。大体全体像がイメージできたかなということで、これから各ビジョンの内容について、今報告された内容について、突っ込んで議論して、これが最後の第Ⅱ部のところに入ってくるということになるかと思う。それで、今、事務局の案として提案があったが、1 枚の資料が行っているかと思う。50 年の森林ビジョン実行計画検討表(最終案)ということで、これまでは、前回この資料の通りにやってもらった。それでだいぶ議論していただいて、内容は煮詰まったのだろうと思っている。是非お願いしたいのは、市民の方に、なぜこんなことをやるんだという必要性だとか、それからなぜこれをやっ

た意義は何なのかということ、やはり説明責任として必要だと思う。我々がこういう意図でやるんだということが大事であるので、前回もお示しいただいた、必要と意義というのは書いていただくと言う事は、是非お願いしたいと思う。市民の方に理解してもらうのに、先ほどのどの部会もそうだが、市民の認識を、ある意味では、意識付けを行っていった、教育を行っていった、それから人材育成をしていったということになってくると、やはりこういった内容についてはよくよく市民の方に理解してもらう必要があるだろうと、いうことになるのであれば、こういった具体性を持つことが、より理解度は増すだろうと思っている。したがって、今回先ほど説明されたものを叩き台にして、もう一步前進させていただいて、この最終案の方に書き写していただければと思う。これは今からの議論があらうかと思うので、その中で色々とまた修正点が、先ほどの意見、説明に対してあらうかと思うので、それを踏まえて最終案ということで、これを作っていただきたいと思う。よろしいでしょうか。そういったところで伊那市 50 年の森林を作っていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。何か今までのところで、ご質問等は。

**(委員)**

ひとつは、いろんな課題が重複するような事があるので、少し整理が必要じゃないかと思う。それから、今まであげたような課題と言うのはなかなか解決できてこなかった問題、これを全部、5 年、10 年で実行するというのは反対に、実行性がない計画ではなかろうか。どれから優先にやっていくのかというのを決めた方が良いのでは。

**(委員長)**

統廃合は、私も読んで見てかなりダブっている部分があるので、減らしていかななくてはいけないと思っている。優先順位は、これはやらなくてはいけないと、私も思っていた。

**(委員)**

もっともなご意見です。伊那市という特性を生かして、伊那市のビジョンだよと載せるのが一番良いわけで、それが多分、さきほどの優先順位ということになると思う。あとは、地理的なこと、気候的なことを生かしてやれるものがあれば、それはまさに伊那市のアピールに繋がるものだと思う。ですから、色々やらなくてはいけない中で、それぞれの観点から、これはやらなくてはならない、ということをお考えいただくということだろうと思う。

**(委員長)**

はい。森林・林業・林産業というのは、どの地域も同じで、いっぱい課題を持っている。それはそれでやろうとしたら、色々な課題が出てくるので、確かに沢山になる。ただそれを羅列するだけでは意味が無いので、こういうことをもう少し工夫して、伊那市独自のビジョンとして作っていければいいのかなと思っている。とりあえず色々な課題

を、実行計画を出していただいて、そのような表をとにかくまとめてもらおうと、いう方法をしてみたいと思う。

**(アドバイザー)**

今、伊那市さんの方で地方創生総合戦略を、策定されるということで、その中を見ると、農林業関係についての記述もありまして、今回の50年の森林ビジョン実行計画を策定するに当たって、現在伊那市さんで検討されている中でも、中身によっては、木材生産と間伐業を効果判定的に数値目標をあげられたり、あとバイオマスの数値目標を策定されている。その辺をもう少し参考にしながら実行計画を作ったほうが、整合性が図られるのではないかと考えている。

**(委員長)**

はい。大変重要な部分かと。今、地方創生で、多分どこの地方自治体もそれで作っているとは思いますが、その辺のすり合わせは、また事務局と私のほうで行うので、とりあえず地方創生の話は置いて、一応我々として、これから各部会から出された意見から進めて行きたいと思う。

それでは一つずつ進めていくが、ここで議論したいことは、目標としてタイトルを変えている部分がある。こういった部分、あるいはこうしたほうが、ビジョンとしてはいいのではないかという、もし意見がありましたらお願いしたいということ。それから実行計画が3つ、4つ出ている。この辺のところでもいいのかどうかということである。そのところに意見を言っていたきたい。あるいは、付け加える必要があるのであれば付け加えて欲しいと思っている。

まず、一つ目の生物多様性と自然環境の保全と向上のところ、「生物多様性を中心とした自然環境の保全・向上」ということで、名称変更します。実行計画で4点出ているが、こういう枠組みでやっていったらどうかということであるが、どうか。意見なし。

それでは、森林生態系の健全性と活力の向上についてはどうか。

**(アドバイザー)**

一点だけであるが。大規模に樹種転換を図りとかいてあるが伊那の天然カラマツは、この地域は最高品質の評価されていた地域であるので、あまり何となく、カラマツ悪者論というのを、大々的に表現するのはどうかと。逆に伊那のカラマツは自慢できる資源だというふうに言った方がいいのではないかということである。そういう意味で、表現ぶりとして大規模にということ、大規模といってもどれくらいかわからないが、少しやり過ぎた部分は元に戻すとか、いうのであればいいんだと思う。それなのでもう少し自慢したほうがいいのではないかと。植えすぎたところは直せばいいので、そこら辺だけお願いしたいと思う。

**(委員)**

カラマツが使えないということは、もう今は昔の話になる。まさにこの地域の特徴を

生かすならば、そういう資源をどれだけ有効に使って、色々な町の活性化に繋げればという、そういう発想だと思う。たぶんそれが一つのビジョンの中のコアになってくると思う。

**(委員)**

少し、書き方が悪かったということ。全体に先ほど言われたように、面積が異常に多いというのが一つあって、適地適木の部分でないところ、私もカラマツの品質の良さを知っている。この書き方だとそう捉えがちですが、実は合っていないところに植えてあるカラマツが多いと捉えてもらって、カラマツは真直ぐだと皆さん思われるかもしれないが、場所の悪いところに植えてしまい、非常に品質、品質というか木が持っている性質は非常に色々である。そのものをそのまま永らえて、将来どうなのかという部分を、徐々にパッチワーク的に開植して、それでまたそこには見合ったものを植えましょうというようなイメージなんですよ、実は。そこら辺の部分で見極められる人がきちんといて、作業も、我々もきちんとした作業をするということなので、少し付け加えさせてもらおうと、伊那のアカマツとカラマツというのは代表的な樹木なので、これをやはり大々的に伊那市が、一番全国にインパクトのある話で、これを題材に、松茸の話を出したり、カラマツをもっと切るよと、そうではなくて安定供給する部分もきちんと作りながら、製品だよという意味もあって、僕らがいくら大々的に切っても、切りきれないので、そんな意味のことを記載すればいいと思う。

**(委員長)**

はい。カラマツの樹種転換については、今のグループの獣害対策のところと、それからもうひとつのグループである。生産力と林業関係、齢級の平準化のところでもカラマツの長伐化とともに樹種転換の話が出てきたのであるが、今おっしゃられたように、やはりカラマツは非常に重要。アカマツも重要。これはこの地域、上伊那共通だと思うが、これは是非死守して、守っていくというか、更に良いものを作っていくというのが大事だと思う。従って、獣害対策としてカラマツ……。これは大きいので、面積が非常に、大きいので特にこの辺が目立つのかもしれないが、考えとしたならば、適地にきちんとそれにあった樹種を植えるかどうかということだと思う。その辺が大事であって、その……。今後していかななくてはいけないと思うが、どこでもカラマツというのは、やはり問題だと思う。大規模にというところも、もしかしたら今の立地条件とはそぐわないところまで植えるという意味だとしたら、問題かもしれない。そういうような見直しというのは、どうしても必要になってくるでしょうね。

**(委員)**

広葉樹をどうしても、松枯れにも、どうしても切り替えていくには、カラマツというか、カラマツには悪い事を言ってしまったが、そういう意味では、カラマツを何でもいけないう訳ではなくて、その辺から手を付けていかないと、獣害対策は進まないのではないかと、広葉樹に切り替えるには、松は松くい等あるので、カラマツから手を付

けていかないと、できないのではないかということで、書いてある。こんなことで上げたわけである。

**(委員)**

ご存知の通り、日本ジカは苗木を植えると食べてしまう。樹種転換をして植えるということをして、それがまた山になっていくかどうか、これも一つ大きな課題だと思う。大きく防鹿柵を設置してまで木を植える必要があるのかどうか、そのところも含めての検討だと思うが、そういった意味で、我々行政では思いつかない発想で、どうすればエサとなるような実になる林が出来るのか、と大胆に答えていただけたら、おもしろいのかなと思う。

**(委員長)**

はい。基本的には獣害対策、松くい虫、山火事防止というようなところで行きましょうかというようなところなので、カラマツの扱いについて、そこを少し考えたほうがいいのかなと思う。それとちょっと気になるのが薬剤の空中散布の問題である。ご存知の方がいらっしゃれば。今、伊那市ではもう薬剤散布はやってない。長野県下はほとんどやってないんじゃないか。

**(委員)**

駒ヶ根で、東伊那。

**(委員)**

福岡が一番薬剤散布が多くあるので、直注入では全然、赤くはならないが、費用がかかってしまいどうにも、松茸山に直注入なんて。

**(委員長)**

私もできれば被害を食い止めるなら、空中散布が非常に今のところ良い方法だとは思いますが、環境問題だとか、地域**危機被害**の問題だとかがあるので、この辺は慎重に扱う方がいいのかと思う。いずれにせよこの3点については、生態系の健全性ということで、どうしても大事になってくるだろうと思う。

**(事務局)**

事務局からお願いと言う事であるが、今までの委員会の中でも、部会の皆様にもご提案してこなかったのであるけれども、一部私たちの方から後で追加でお願いする部分がある。この部会にお願いするのが適当かなということで、本日お配りしてあるビジョンの中の84ページをご覧いただきたい。相観の維持という項目がある。こちらの方に、特定外来種とか竹林等の拡大防止というものが、どうもあったほうがいいのかと提案をいただいております、こちらは、こちらの部会、森林生態系の健全性と活力の向上いう中に含めさせていただいて、ご検討いただきたいと思いますので、是非ご了解いた

だければと思う。

**(委員長)**

はい。相観の維持ということで、特定外来種、竹林等の拡大防止。外来種が入ってくると、元々あった生態系が破壊されるというのは、アレチウリであるとか、そういうものですね。ニセアカシヤ、というようなことがあるので、この部会で是非、特定外来種の問題、竹林等の拡大防止について、相観の維持ということでおねがいできないかなという、事務局からのお願いです。特に反対意見がなければ、この辺も含めてこの部会でやっていただくということで。他に。それでは森林生産力と林業経営の向上、第4部会と言っていいのか。ここについては、どうか。何かご意見、ご質問等は。

**(委員)**

この部会ではゾーニングということ、一つの統括としての項目として、ゾーニングという言葉で実行計画を立てているが、他の部会の中でもゾーニングという言葉が出てきて、更に言葉を変えて各所にゾーニングという内容が出てくるので、この辺を整理しなければ、多分混乱してくるだろうと思うが。

**(委員長)**

ゾーニングで言うなら、第1部会の生物多様性のところで、特定とゾーニングがあって、ここが出てくる。それから今のところに出てくる。あと特に、どうか。各部会の方で、ゾーニングの問題であげているところは、どのあたりか。ゾーニングの問題はどうするか。こういう枠組みがあったほうが、やりやすい。第1部会の生物多様性を見たときに、大きいのは、エコパークやジオパークや国立公園のところを中心に議論していて、更にその周辺の、バッファゾーンということであった。これが以前事務局から出たような話であったが、今の部会の方では、木材生産と公益機能の分類ということか。ここが、第1部会とかみ合ってくるのか、ということになるのか。特に今の第4部会で言うなら、むしろ里山の方の木材生産とか人との接する部分がかかなり、ゾーニングとしての見方があるのだろう。第1部会は特に奥地奥山の方の環境保全的なところでのゾーニングということで、少し性格が違うかなという気がしている。もしかしたら、このまま行っても、問題が無いかもしれない。どうか。

**(委員)**

傾斜であるとか、標高であるとか、自然環境であるとか、そういったところで、第1部会のエコパーク、ジオパークなんかであっても、やはり木材生産をしっかりとやっていく、というような現場は当然出てくるであろうと思う。であるから、かなり大変になる部分があるだろうと思う。提案であるが、今事務局で示していただいているもの、ビジョンの素案の中の、68ページ。森林管理の基本概念というところで、基本についての考え方がある程度お示しが出されている部分があるので、例えば実行計画の中、各部会の実行計画の中で、ゾーニングが書かれている、木材生産とか広域機能、また山地災害

の関係も出てくるのかと思うが、あと生物多様性もか。そういったものを、ここで柔軟にひとつ、一項目立ててしまっても、第3章 森林管理の基本概念と、文章を入れ加えながら、ゾーニングについての考え方というところと言うと、実行計画をたててしまってもいいのかもしれないと思ったりする。

**(委員長)**

はい。ゾーニングとして。それの方がいいのではないかということ。委員の皆さんどうか。

ゾーニング・・・難しい話であるが、とりあえず、3章の中で、きちんとゾーニングを定義して、これはこれとしてやっていくと、いいよなというご意見があったらいいと思う。

**(委員)**

ゾーニングを主に担当するところがあれば、楽だと思う。ただ、ゾーニングとマッピングは違う。それと大事なのは、市民の方が納得していくようなかたちで進めていく。どうしても、これは今指定しなければならないというものであれば、指定していけばいいし、丹念にやっていけばいいと思う。

**(委員長)**

はい。基本的にはゾーニングそのものは必要になるし、またそれぞれの施業をやる場合には、あるいは経営計画にはどうしても繋がってくるので、それはそれで全域、伊那市と上伊那全域を何らかの部分が必要になってくると思う。これはこれで、もう一度、一本化の道ということでやった方がやりやすいと思うので、そのようなことで、少し検討させてください。事務局と相談しながらやっていきたいと思う。

**(委員)**

里山を主体とした森林ベース。

**(委員長)**

そこのところがむしろ重要になってくるのかなと思う。  
他にどうか、生産力と林業経営の向上のところでは何かどうか、ご意見、ご質問等は。

**(アドバイザー)**

中身であるが、集約化のところ、小規模所有林を集約化と書いてあるが、伊那市の特徴は、実はここに書いてある国有林と、集落有林と開閉有林と、純粋な私有林ではない比率が高いので、認識をそういう、所有形態を認識した上で対策を講じるということではないかと思う。やはり伊那市の特徴であるところをきちんと活かしながらということで認識いただければいいんじゃないかと思う。あと、実は最後のところで、所有放棄地の公有林化を検討、中々活気的なことを書いてあるので。実はこれが家もものすごい田舎であるが、大変な問題であり、過疎集落が消滅集落になって、森林の所有



がわからない。田んぼは処分していくが、山だけ処分していかないパターンが多いので、ここら辺をどう考えるかというところで、10年後書いてありますが、非常に大きなポイントだと思うので、書きぶりをよく検討していただいたと思う。

**(委員長)**

書いてもらえばというところで、中々良い提案だと思うので。他にどうか。それでは、次の市域の持続可能な経済発展を担う農林業・木材産業活動の推進、これ名称変更ということではあるのか。

**(委員)**

目標という事で、こういう書きっぷりなのかと思って書いたが、他と合いませんので、元に戻してください。ただ、「市域の」というところは、伊那市の話は当たり前なので、「市域の」は取ってください。

**(委員長)**

それでは、従来の表現でいくということで、「市域の」は取る。それから先ほど事務局からこのフレーズをもらったのか、付け加えたのか。豊かな山が富と雇用を支える50年後の伊那市というのが、新しく全体の中に結合したということで、それはそれでいいのかなと思う。何かご意見、ご質問等ございませんか。

**(アドバイザー)**

この中身より、これに関わる前段の方の資料編のところが、非常に、いわゆる林業のところで止まっていて、木材産業のところがほとんど皆無である。資料のところ、工務店、建具、家具屋さんとか色々あるが、何も書かれていない。非常に前段の部分、今までの課題のところが林業のところで止まっていて、素材生産量までだ。少しその辺だけすこし、ここにきちっと概念を押し込むのもいいことであるが、前段のところを心して事務局の方で、資料の書きぶりを考えていただければと思う。よろしくお願ひしたいと思う。

**(委員長)**

はい。その辺は少し気になっていて、資料の部分で、林産業のところが弱いなど。特にせつかく伊那市は、バイオマスとか薪生産というものが圧倒的なのに、資料を読んで、どこだったかな、どこだったかなと探しても、出てこない。最初の部分が一言づれているのであるが、林産業関係、川下の部分が弱いので、少しここを工夫して書いた方がいいんだろうと。最初からここで議論しているように、川上から川下までという流れで見ましょうよ、というのが基本であるので、もう少し力が入ってもいいかと思うので、すみません、事務局の方、よろしくお願ひしたい。

他にどうか。ここで一つダブリがあるのは、市域林業・木材産業の連絡協議というのが、次の第6部会の連絡協議、①と重なる。

**(委員)**

私たちのところは、連絡協議の体制をどのように作っていくのか、ということだろうと考えている。ですから具体的に、例えば林業、木材産業との連絡協議はこんなことをする必要があるのではないかというような事を、こちらでお考えいただければいいのかなと思う。

**(委員長)**

なるほどね。考えは考えとしてこれでいいんだろうということ。しかし、見た目はどうもダブっているように見えるように思えるが。①のところは、少し書きっぷりを変えろということか。それと、もう一点気になったことが、実はこの森林ビジョンの報告書の中には、広葉樹の活用と言うのも結構書いてある。40 ページあたりに。どうしましょ、この上伊那、伊那市の特徴としてカラマツ、アカマツという、広葉樹というのが中々、最初の資料部分には出てくるが、ここには出てこない、少しチグハグな部分があるかと思っているが、広葉樹問題はよろしいですか。

**(委員)**

地域財活用のところで、あまり具体的には書いてありませんが、カラマツ、アカマツ、広葉樹も含めてというようなイメージかなと思う。

**(委員長)**

これからたぶん広葉樹は大変重要になってくるのかなと私自身思っている、是非広葉樹を進めていただければと思う。他に何か。なければ、最後の第 6 部会のところで、ご意見ご質問等がありましたらよろしくお願ひしたい。

**(委員)**

それぞれ市域林業、木材産業とか、他機関・産業分野、集落という対象があるわけだが、それぞれの対象にどのような、会社もしくは団体さんがあるのか、集落とか区というのは、伊那市の中でどうなっているのかという情報があると、もう少し具体的に考えられるので、役に立つと思っていて、工程表をいただける範囲内ということで、こういう情報をいただけたらと思う。

**(事務局)**

そういうことでまとめたことはございませんが、いくつかの資料をまとめる中で整理したものをお渡しできるように努力したいと思う。

**(委員長)**

はい。他にどうか。  
他機関・産業分野との連絡協議という枠があつて、これも利害時の連携、そうすること

によって、木材利用の幅が広がってくるという大変重要なところである。これが、このページ以外は40ページくらいに、少し示されていて、この辺の部分は特に担当するというのは、市域材活用と普及のところ、他産業との連携と出ている。それはない？ 他産業・・・例えば工業だとか商業だとか。要するに木材利用の幅を広げるような工夫ということであるが、そこら辺を意識した書きっぷりが欲しいなと思っている。そうすると、ここの流れがでてくるので。

**(委員)**

実は、今、林業界は、地域材が流れ出していて、それから木材利用から離れている。私たちが苦勞しているところがあって、それは何かと言うと、住宅産業があまり使わなくなり、実は設計屋さんとか、設計の段階から、全然コンタクトが取れていないということがある。これが一番問題なのが、8割くらいが外材で、2割が日本の国産材で、まだ下がっていく。これは設計の段階から、国産材を使わないという事があって、それを強制力でやることではないが、そういうものを維持するということは、他産業よりも、設計段階のところ、設計さんの部分というところが大きな場であるから、細かいようであるが、かなりウエイトが大きい。これは、全国的な話であるが。是非とも、そういうところの、他産業よりも、木材産業なんだけど、設計という部分を強化してもらえないかと、輸入に頼りすぎている部分が目立つので。

**(委員長)**

はい。消費者と最も接する部分が、国産材や地域材との関係が薄いというのは、実はあり、どうしても手に入れやすい外材をとということが、すでにこういう流れということか。そこのところを何とか掘り起こさないと、国産材、地域材は進まないだろうと言う考え方である。要するに、末端の工務店、建築士、この辺との連携強化をどうするかという部分。この辺は詰めてもらえればと思う。よろしくお願ひしたい。

**(委員長)**

全体に対して何か意見は。今度優先順位を考えないといけませんが、とりあえず、最終案をまとめる段階で、各部会の方で、一番から優先順位が①が、一番優先順位ですよと、徐々に②、③とやってもらったら、いいと思う。それを見て我々ももう一回、事務局と相談しながら、優先順位を再整理と言う事をやりたいと思う。一応優先順位を、伊那市の特徴ある森林作り、あるいは林産業のところを、是非、各部会で、ここのところは是非50年将来見越してやりましょうよ！！と、最も協力に進めていくのはこれだ！！というものを、是非各部会の中で議論してもらって、提案していただければと思う。市民で作る伊那市の50年と言う事で、ご協力いただければと思う。

**(アドバイザー)**

先ほども出たが、伊那市を取ると、長野県と書いてもいいし、日本政府と書いても50年森林ビジョンとできる。やはりさすがに、伊那市だ！！というものを書かなければい

けないと思う。それには、ジオパークとか、自慢できるものがあるので、アカマツ、カラマツという非常に良い資源を持ち、かつ水害の歴史から山づくりをしてきたという過去に経験のあるということを前提として、ビジョンを作ると言う事で、ある程度特徴を出さないといけない。その時に、私から伊那市発でお願いしたいということは、戦後化石エネルギーに依存してきた日本が、これから価値観を切り替えるきっかけが、こういう森林資源の見直しなり、山の見直しというのが、非常に大きなポイントだと思う。

山の村ほど、鉄筋コンクリートの庁舎が建って、学校が建つと大喜びしたが、永久校舎じゃなくてみんな壊さなくてはいけなくなった。これよく考えみたら、100年前からもっているのは、木造校舎しかない。色々な事に気がついてきたのか。と言う意味で、森林作り 50年のビジョンということで、やはり、森林なり木材に対する価値観の、もう一回見直すべきじゃないかという事を、市民に訴えたうえで、特徴ある伊那市の色々な背景を踏まえて、是非、最後に市民に発信するときに、そういう時に考えていただけたらと思う。

**(委員長)**

はい、まさに森林と共に、あるいは木材と共に伊那市は生きていくんだというところが、大事なのだと思う。是非、個性のあるビジョンをお願いしたいと思う。

**(事務局)**

最終案ということで、ご検討いただく。委員長さんからお話があったが、その後、正式なまとまりがあるので、市民の皆さんにその計画を公表して、市民の皆さんのご意見を伺うという、パブリックコメントを募集したいと思っている。そちらの方、1月に予定して、頂いた意見を元にもう一回練り直して、年度末には市長に報告するような格好で、事業の方を進めさせていただきたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。是非ご理解いただいて、よろしくをお願いしたいと思う。

**4. 閉会**